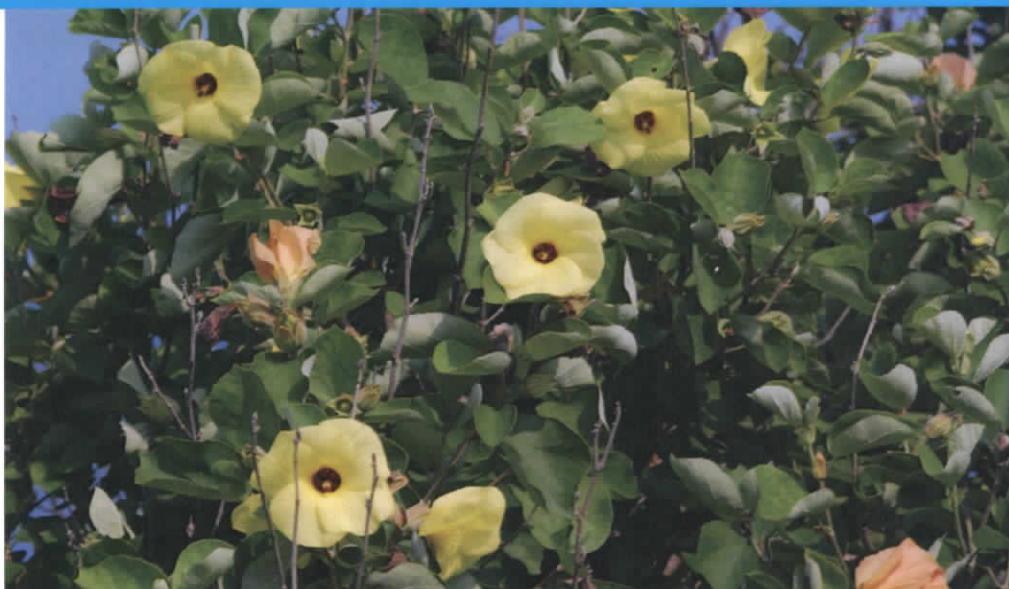


ハマボウ(天神島臨海自然教育園)



天神島の夏に欠かせない花木の代表はハマボウです。5枚の花弁の黄色と、花弁の基部と雌しべの先のえんじ色とのコントラストが鮮やかで、真夏の青空に一段と映えます。一日花なので、夕方にはオレンジ色になってしおれます。江戸時代の化政期に長崎にやってきたシーボルトは、ヨーロッパでは未知の植物であったハマボウに学名をつける際、和名をそのまま用いてヒビスクス・ハマボウとしました。ヒビスクスを英語読みするとハイビスカスで、熱帯の植物としてよく知られた花です。ハマボウは日本特産の落葉性海岸植物で、神奈川県から奄美大島までの沿岸に分布しています。

アオバハゴロモ(馬堀自然教育園)

夏にみごとな変身をとげる昆虫のひとつにアオバハゴロモがあります。初夏、イヌビワなどの枝につく幼虫は、植物の汁を吸って栄養にするだけでなく、その成分から白い粉を作り、全身にまといます。大きくなったら、7月下旬頃から羽化して成虫(写真上)になります。体は薄い青緑色の大きな翅でおおわれ、幼虫とは見た目が大きく変化します。成虫も植物の汁を吸いますが、幼虫のように白い粉は作りません。アオバハゴロモはしばしばカマキリやクモ、小鳥などに食べられますが、それによって多くの肉食動物が支えられています。天神島でも観察できます。



自然教育園だより

Vol.7 No. 2
(2014年夏号)2014年8月8日発行
横須賀市自然・人文博物館
046-824-3688

横須賀市自然・人文博物館付属 馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園

馬堀のみどころ (8~10月)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----



アカハライモリ (8月)



シンジュサン (8-9月)



ヒラタケ (10月)

真夏の 雜木林では、クヌギやコナラの樹液にカブトムシやクワガタなどいろいろな昆虫がやってきます。水路ではサワガニも見られ、オニヤンマやオオシオカラトンボなどが飛び交います。9月になると、ヌスピトハギやヤブタバコ、ヒイラギなどの花が咲き、ムラサキシキブやカラスウリなどが実り、さまざまなものこも現れます。



ドクツルタケの一種 (10月)



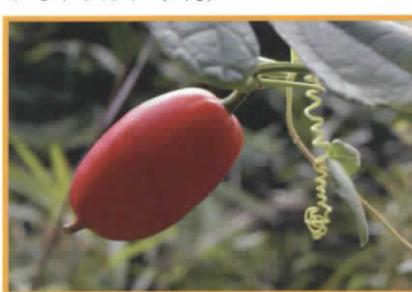
アオドウガネ (9月)



サトキマダラヒカゲとクロカナブン (8月)



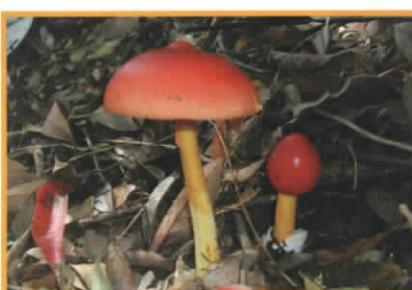
オオミズアオ (8月)



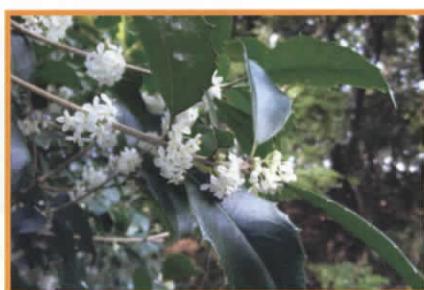
カラスウリ (10月)



サワガニ (8月)



タマゴタケ (10月)



ヒイラギ (10月)



ヌスピトハギ (9月)

天神島のみどころ (8~10月)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

夏には ハマオモトやハマカンヅウなど多くの海岸植物が花盛りとなり、花には蜜や花粉を求めて、さまざまな昆虫がやってきます。海の中では、いつも見られる魚に混じって、色鮮やかな熱帯性の魚も見られます。楽しい磯観察ですが、打ち上げられたカツオノエボシや最近話題のヒヨウモンダコなど有毒な生き物にはご注意ください。秋にはハチジョウナやオオバグミなどが咲き、トベラやテリハノイバラなどが色鮮やかな実をつけます。



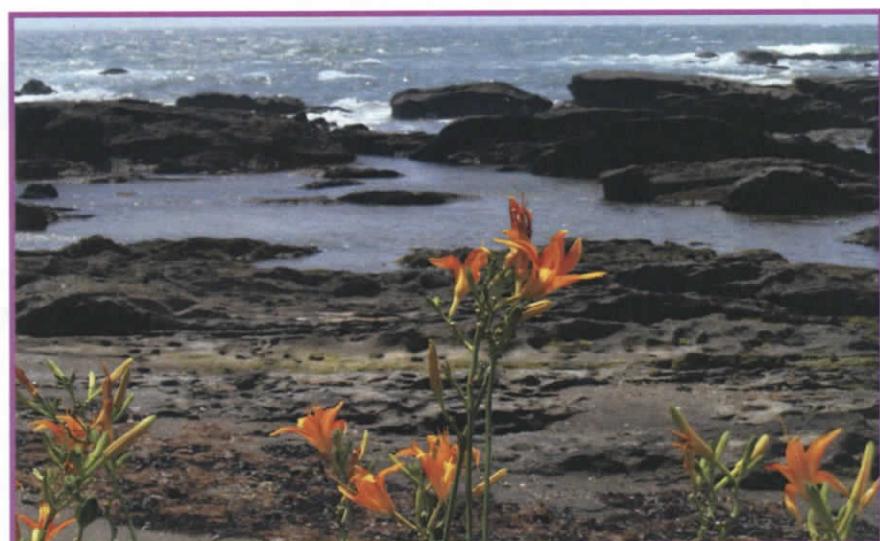
ハマオモト (7-9月)



アオモンイトトンボ (9月)



ヤママユ (8-9月)



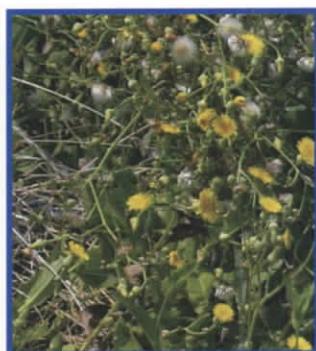
ハマカンヅウ (8-9月)



ウミネコ (8月)



フナムシ (9月)



ハチジョウナ (8-9月)



ヨツスジトラカミキリとヘクソカズラ(8月)



ナミテントウとハマゼリ (8月)



メツヨイグサ (8月)

自然教育園の行事案内

天神島ガイドツアー

天神島臨海自然教育園では、毎月第4日曜日に園内の自然を案内するガイドツアーを開催しています。1時間程度で、天神島からの景観やその時に出会う生物の解説を行っていますので、お気軽にご参加ください。参加費はお一人50円です。4~9月は10:30-11:30、10~3月は13:00-14:00に開催します。



赤く色づいたトベラの種子(10月)

今年度の行事についての詳細はリーフレット等をご覧ください

特別展示「ヨコスカの宝」



特別展示「ヨコスカの宝」

9月7日まで博物館本館で特別展示「ヨコスカの宝」を開催しています。相模湾の深海に生息するミツクリザメやラブカをはじめ、美しいタカラガイや海藻など海の生物も数多く展示されています。ぜひご覧ください。

自然教育園のできごと

重油流出事故の影響

3月18日、浦賀水道で貨物船同士による衝突沈没事故が発生しました。沈没した貨物船より重油の流出が確認され、重油は東京湾、相模湾でも漂着が確認されました。天神島周辺ではその影響を受け、今年のビジキ漁は解禁されませんでした。

天神島で重油の漂着が確認されたのは3月25日の午前中でした。それから数日、重油の付着したゴミが流れ着く、磯の岩に重油がこびりついている、潮溜まりに油膜が張っているなどの状況が確認されました。その後除去作業が行われ、海岸の生物への影響も見られず、状況は改善されました。



磯の海藻の上に付着した重油

マンボウ漂着

6月8日にスタッフの一人が磯の岩の間に不思議なものを見つけました。波に合わせてぐにゃぐにゃと揺れる大きくて白い物体。

「深海の生き物?」「宇宙人の死体?」など想像が膨らみましたが、岩にあげて広げたところ、マンボウだとわかりました。

マンボウの体の左側はきれいに切り取られたように無くなっています。捕獲後に人の手によって加工されたように見えました。マンボウは全長110cm、ひれを含む高さが80cmほどでした。



天神島の磯に打ち上げられたマンボウ

横須賀市自然・人文博物館と付属自然教育園のお問合せ

博物館（本館）： 横須賀市深田台95 電話046(824)3688 Fax.046(824)3658

天神島臨海自然教育園・ビジターセンター： 横須賀市佐島3-7-2 電話(Fax.)046(856)0717

馬堀自然教育園： 横須賀市馬堀町4-10-3 電話(Fax.)046(841)5727

◎博物館や教育園の情報や「教育園だより」は下記ホームページでもご覧いただけます

<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>